



医療法人近森会

発行 ● 2007年 10月 1日

www.chikamori.com
www.近森病院.com

びるっぱ 10

Vol.255

〒780-8522 高知市大川筋一丁目 1-16 tel.088-822-5231 fax.088-872-3059 発行者 ● 近森正幸 / 事務局 ● 川添昇

シナリオ無しの大規模防災訓練

2007.09.15 近森病院新館周辺

7月16日の中越沖地震は記憶に新しく、21世紀前半に発生するであろうと言われている東南海・南海地震は、ますます現実味を帯びてきた。高知県は全域が東南海・南海地震被災対象地域になっており、発災直後は我々が被災者であり、『自助・共助』して活動しなければならないことになる。医療の現場でも全職員が日頃から防災訓練や教育を通じて不測の事態へ備えておく必要がある。

この9月15日、大規模訓練が近森病院新館周辺で行われた。



確認事項をチェック中の山本部長

災害対策委員会/呼吸器外科部長 山本 彰

2年ぶりの大規模訓練

昨年は電子カルテ導入と重なったために2年ぶりの防災訓練となり、以前の訓練経験者も数が減っており、来院模擬患者を大勢設定した大規模訓練を

行うことになった。

訓練参加者は100人を超え、模擬患者やカメラ係などを合わせると、約170人の規模に及んだ。見学者も、高知市保健所や救護病院の方々もおられ、一部の方には模擬患者としても参加していただいた。発災時間は午

前10時として、病棟での初期活動を行い、外来では災害対策本部を設置して、模擬患者を受け入れて、災害支援病院としての訓練を行った。

シナリオ無しで、より実践的に

今回は従来の防災訓練といくつか異なる設定をした。事前に参加者の役割を知らせたシナリオに沿った訓練は排して、より現実的な設定とした。すなわち当日勤務している職員役以外の、自主登院する職員には、原則的に誰が訓練に参加するのか、どの役割で活動するのか訓練前に知らせなかった。訓練当日に災害対策本部で活動場所を割り振り、各自が災害の現場で判断して臨機応変に活動できるようになることを目的とした。

検査に要する時間も、より現実的に

さらにX線撮影、血液検査、輸血検査などの指示が出た場合、実際に要する時間を設定して、指示を出すすぐ結果が出るのではなく、一定の時間を要するようにした。

また病棟でも、当日実際に勤務している職員にも全員初期活動に参加してもらい、被災状況報告を作成した。待機行動ができた段階で訓練終了として、通常勤務に戻ってもらった。 ※次頁へ

徒然なるままに



近森 正幸

今夏は例年になく暑かった。病院にかかっているお年寄りの体調もすぐれず、暑さに倒れる人も多かったようだ。わたしも日中はなるべく歩かないようにしていたが、胃の膨満感が出たりしてあわててしまった。

暑さで散歩も控えて室内の運動に切りかえていたが、この数日しのぎやすい日が続いたこともあって、早朝の散歩を再開した。いつもの江ノ口川沿いから城西公園を回るコースだが、途中にはノウゼンカズラやサ

ルスベリの花、赤紅のカンナが咲いている。こんな夏の花に混じって秋のハギの花も咲き始めていた。ネコジャラシなどの雑草もなかなかいい。暑いときは雑草もうとうしいが、涼しくなってくると可愛らしく見えてくるから勝手なものである。

通勤途中の黄昏どきの夕日や、朝露に光る蜘蛛の巣、しだれ梅や金木犀(※6面に歳時記あり)の花の香りに、ふと足を止めることもあった。またリハ病院の南西角の植え込みにツル草が可愛い花を咲かせていたのをどれだけの人が気づいているのだろう。

考えてみるに、なにかにつけて愛おしさを感じるの、自分の生命があと何年と、数えるぐらいに見えてきたことがあるのかも知れない。

道ばたの野の花や雑草がわたしをこれほどまでに幸せにしてくれるとは、自分はなんと幸せな人生を歩んでいるのだろうと、しみじみ思う。

理事長・ちかもり まさゆき

※1面から続きます。

次へつながる訓練結果の反省点

事前に役割を決めていなかったため、現場で必要なリーダー選出がうまくできなかつたり、重症、中等症、軽症エリアなどと本部の連絡を十分取れてなかつたりした。X線撮影を実際の時間で運用したため画像診断部前に被災者が停滞し混乱が見られる、などとなった。

また災害時には当院では災害カルテ、手書き伝票での運用で行うが、昨年10月の電子カルテ導入後であり、伝票運用に不慣れな職員も増え、多少の混乱

を生じた。

院長の訓練終了の院内放送と共に約1時間の訓練を終え、災害備蓄食を皆で試食した。訓練後でもあり、備蓄食の味は概ね好評であった。

反省会では従来の訓練時より活発な発言があり、多くの問題点が挙げられた。訓練そのものの準備の不備な面もあったが、来年以降の防災訓練への提言も多くあり有意義であった。

今回のように事前の役割分担を決め

緊急放送を受けてスタッフ続々登院

急な大雨で受付大慌て



なかったことで、災害時活動の意識づけができ「各自の防災訓練となった」のは良かった。これを活かし、活動マニュアルの充実をはかり、来年もより実践的な防災訓練を行いたいと考えている。

第41回 地域医療講演会 「骨軟部悪性腫瘍の診断と治療」

癌研有明病院(東京)整形外科部長 松本誠一先生をお迎えして、2007年8月18日に、高知新阪急ホテルにおいて

放射線科部長 森田 賢

松本誠一先生をお呼びするきっかけは、整形外科の衣笠清人部長が後期研修医の骨軟部腫瘍の研修病院を探しあぐねていたことに始まります。

たまたまそのことを知った私が、友人が癌研のトップであり、癌研なら症例数日本一で、立地条件も若者に人気のお台場の近くにあり、若い研修医には勉強も息抜きもできる願ってもない研修病院となること請け合いただと、お話ししたことでした。その後、話がとんとん拍子に進み、今回の当院訪問と講演会開催の運びとなりました。

松本先生は私の東京医科歯科大学の同期生で、お生まれは東京ですがお母様が高知出身ということもあり、学生時代から親しい間柄です。日本の癌医療の草分けである癌研病院一筋に、まだまだ根治の難しい骨軟部悪性腫瘍の診断と治療に精力的に取り組まれています。今回は久々のお墓参りも兼ねての来高となりました。

講演会はお盆の週末の土曜日で残暑も厳しいなか、百名余りの熱心な聴衆で立ち見もでる程の、講師の先生も驚くほどの盛況ぶりでした。

癌研が日本で最も早くから取り組まれている、癌に冒された手足を出来るだけ切断せずに残す「患肢温存療法」について、歴史から最新の治療法まで、分かりやすく丁寧に解説してくれました。

骨軟部悪性腫瘍は、人口の少ない高知県では年間一人程度の珍しい病気で、吉永小百合主演の「愛と死をみつめて」

▶左から挨拶に立った近森正幸理事長、中央に松本誠一先生。右端は41回講演会の仕掛人で筆者の森田部長



▲質問に立つ衣笠清人部長の主人公が冒された病気(軟骨肉腫)としても有名ですが、もう不治の病とは言わせないという強いメッセージが込められた、素晴らしい講演会となりました。

最後に当日、最も好評だった写真▶を提示します。過ぎ去りし70年代を感じて下さい。



▼当日、好評を博した一枚。さてこの面々は？(正解は8面に♡)



ハッスル研修医・第5回

北海道から来て、すでに半年が…

まだ雪降る北海道から桜舞う南国高知にやってきて既に半年近くが経過しようとしています。部活に汗を流し、試験では冷や汗を流しながら何とか何とか無事に6年間で卒業することが出来、国家試験も何とかパスして4月より内科研修をさせていただいています。

研修開始から5ヵ月が過ぎようとしています。研修医同士で原稿の順番を決めたときには「まだまだ先だ」とタカをくくっていましたが今は焦ってこれを書いていきます。見学に訪れてスタッフの皆さんが生き生きと働いている姿を見て、試験を受け、運よく働けることとな

初期研修医
山川 純一



りました。4月から現実の医療現場に立つようになり、色々な場面に遭遇し充実感を得ることもありました。予想もしない事態にも出会うことの方が遥かに多く、「生き生きと」働けるようになるまでの道程が険しいことをしみじみと感じている毎日です。

これからも迷い、戸惑い、ご迷惑をおかけするとは思いますが、ご指導のほど宜しくお願いいたします。

第42回

地域医療講演会

「心臓血管外科における再手術」

九州大学医学部循環器外科教授 富永隆治先生をお迎えして、2007年9月6日に、ホテルサンルート高知において

ハートセンター

心臓血管外科部長 入江 博之

▶ 左から浜重直久副院長、近森正幸理事長、富永隆治教授、富永夫人、入江博之心臓血管外科部長、九州出身の田代千恵子管理栄養士

今回は講演名がかなり専門的であるにもかかわらず院外から65名、院内から70名の方々の参加をいただき、会場に座りきれず立ち見まで出るという状況でした。おいで下さった方々にはご迷惑をおかけしました。

院外からも高知赤十字病院、生協病院、高知病院をはじめ多くの病院関係者、医師がご参加下さいました。

講師の富永教授は米国クリーブランドクリニックでの先輩にあたります。長い九州大学心臓外科の歴史のなかで、とくに弁膜症の再手術について症例を動画にてご提示くださいました。聴衆を考慮し、優しい言葉で分かりやすくお話しくださいました。

お●知●ら●せ

第8回 近森病院 公開県民講座

07年10月13日(土)14:00-16:00
県民文化ホールグリーンホールで

「愛する人が、いま倒れたら」ER篇

- ①救急車を呼ぶとき、呼ばないとき
香美市消防署 救急係長—宗石康生氏
- ②あなたのその手が命を救う
地域医療連携室看護師長—和田道子
救急部(ER)主任—村田美和
- ③救急車内、救急部ではこうします。
救急部(ER)部長—根岸正敏
- ④トリアージって何？
救急部(ER)科長—井原則之

第44回 地域医療講演会 医療安全セミナー

07年10月25日(木)

18:00~高知城ホールで

テーマ「自殺を防ぐ
—その理解と
対応について—」

- ①高知県健康づくり課
精神保健福祉担当 谷 聡子チーフ
「高知県の動向と対策」
- ②日本臨床心理研究所 松井紀和所長
「自殺の心理的背景」
- ③近森会医療福祉部
精神保健福祉士 檜垣千穂
「はやめにご相談ください！
~精神科の医療相談について」
- ④近森会看護部主任 上総満高
「自殺防止への日常的な取り組み
~その関わりについて」

第45回 地域医療講演会

07年11月2日(金)18:30~

近森病院管理棟5階会議室で

- ①福岡大学循環器内科講師
熊谷浩一郎先生
「心房細動のカテーテル
アブレーション治療」セミナー

いずれも入場無料



一般手術でも再手術は癒着などの問題で難しいものですが心臓外科の場合はさらに大動脈や心臓への損傷の危険が高く困難な手術です。

1991年以降20%近くあった再手術時の手術死亡率が数%にまで低下していることが示されました。技術や器械の進歩改良、ならびに経験の蓄積のな

せるわざと考えます。

手術ビデオは高度な内容で循環器専門医でも一部分りにくいところがあったと印象をもらしておりました。これは心臓の解剖学的構造を見る機会が少ないことが原因と考えます。これを鑑みて第2回心臓ウエストラボを近いうちに企画したいと思います。

院外エッセイ

東龍之介の代わりは居ない

高知市立城東中学校 教諭 東 龍之介

1964年、宿毛市生まれ。保健体育教師。高知県中学校体育連盟副研究委員長。現在は高知大学大学院で「体育の授業改善の方法」を研究中



保健体育の教師というと、補導担当とか、いかつい頑強なイメージを持たれる方が多いのかも知れませんが、むしろ今の私はそんなタイプではありません。

私の現在の喜びは、家族のために夕飯を準備したり、朝には昼食のお弁当を作ったりすることなので、いかつい体育会系とは程遠いといえると思うのですが、ここまでの道のりを聞いて欲しいと思います。

大学時代はラグビー部、教師になりたての頃は一日12時間以上は学校にいて、自分でいうのも恥ずかしいのですが、かなりの熱血教師でした。休日は部活動と授業の準備に充て、週に2、3回は仕事が終わってから呑みにも出て、絵に描いたような全力投球教師だったと思ってます。たいへんなことも多い教育現場ですが、生徒の成長や笑顔がたいへんさを吹き飛ばしてくれる、やり甲斐の大きい職業でもあります。

ところが、すでに10年ほど前になりますが、ある日突然余りにも調子が悪くなり、首をかしげつつ仕方なく病院に行くと、不整脈と甲状腺に異常があるといわれたのです。

主治医の先生には休職を勧められ

てしまったのですが、熱血の全力投球教師なのですから、当時は休職なんて想像さえつきませんでした。

そこで、薬を出してもらって何とか体調の機嫌をとりつつ、それでも月に一度の受診を続けておりました。ところが、ちょうど2年前、今度は寝つきも朝の目覚めも悪くなり、疲労感がいつまでも取れず、勤務中に睡魔に襲われるようになりました。そろそろ熱血の全力投球もくたびれてきた頃でしたが、受診の結果は睡眠障害を伴うつ病だったのです、何と！

音もなく忍び寄るとでもいうのか、およそ私はうつ病にかかるようなタイプとは思っていませんでしたから、これには衝撃を受けました。

頑張り続けることがしんどくなり、結局は現場を離れることを決断したのですが、仕事を続ける決断よりなお多くのエネルギーが必要でした。

「仕事の代わりは居るが東龍之介の代わりは居ない！」と、何度も何度も自分に言い聞かせたことでした。

今、休養を兼ねて高知大学大学院に在籍しています。これまでの人生で一番健康を気にする毎日です。これも悪くない！と、迂闊にも現場を離れて初めて実感できているのです。

患者さんにもっとも近い存在という 看護師としての自覚と誇り

ICU 病棟 武市 知子



集中治療室での重症患者のケアは、専門性が高く、かつ多岐にわたるため、良質なケアの提供には、日々の経験の積み重ねだけでは限界があると考えられ、日々新しい知識と実践が求められていると思います。

今回のセミナーに参加して、これまでは個別の病態として理解しようとしていたことが、相互に絡み合っており、そのために十分理解できていなかった部分がたくさんあったことに気づきました。

講師の吉田聡医師は、自らの経験や最新のエビデンスを盛り込みながら、また、臨床の場で実際に看護師から質問が多い部分に時間を割いて話をすすめて下さったので、**苦手意識をもっていった概念が、思っていた以上にスルスルと頭に入っていき感覚がありました。**

集中治療室での看護は、検温の回数が圧倒的に多く、それはまさに**観察の機会が多くある**ということなのです。

医療の現場では、看護師が最も患者さんに近い存在であると思います。だからこそ、実際に患者さんの身体の中で何が起きているのかを知り、**日々の観察を系統的に行い、それらを的確に医師に報告していくことが必要である**といえ、ひいてはそれが、患者さんにとってのよりよい医療に繋がるのだと思えました。

今回のセミナーでは、新たな知見を得るとともに、自分自身の看護について振り返るよい機会となりました。この学びは、病棟の他のスタッフとも共有し、病棟全体のレベルアップが図れるようにしていきたいと思っています。

リレーエッセイ ゼファー PROJECT

近森リハビリテーション病院 理学療法科 理学療法士 藤本 剛 丈



※左から、香島直大、小森恭平、畑田俊太郎、本田秀明、藤本剛丈、宮川茂 (敬称略)

入職して5カ月が過ぎようとしていますが、以前働いていた病院とはカラーが異なり、経験者でありながら実習生のような勉強に勤む毎日です。

そんな忙しい毎日であるが故に、他には目もくれず自己研鑽に励んでいると思いきや、最近、自動二輪免許を取りに行きはじめました。私が単車に興味を持ったのは高校の頃、隣の家の人君の影響なのですが、高校から現在に至るまで様々な理由で免許を取るには至りませんでした。

しかし、①長崎は道が細く坂が多い上に駐車場代が高いこと②今乗っているハイエースは長崎の環境には不向きなこと③同期の桜達が中免を取りに行こうと誘ってくれたこと④成人した私は社会的責任が発生することなど様々なエピソードが重なり、このたび免許を取得する決心をしました。

そこで、以前より思い描いていた私のゼファー PROJECTを紹介します。車種は「単車は絶対カワサキ」というA君の教えを忠実に守り、ワインレッドのZEPHYR。

購入後、まずUSヨシムラのマフラーに変え、ワイヤー等を延長しなくていい範囲でハンドルをちょいアップ。クリスタルガラスのヘッドライト、メッキのミラーに交換、ウィンカー等をクリアにし、ホーンも変更。シガソをバッテリーから直結で繋いでLEDをシートに装備。最初はこのくらいで楽しみつつ、徐々にZ II使用に進化させていければ私の旧車Lifeも一際輝き続けることができると信じています。

この最強の相棒を手に入れたその時、私は日本海の疾風(かぜ)になっていることをお約束し、ペンをおきたいと思っています。

ボクたちの「この一枚」 高知での思い出づくり

近森リハ病院 作業療法科 本田 秀明 ●7月23、24、25日の3日間、高知県西部の大月町に男8人でキャンプに行きました。全員長崎出身で高知での思い出をつくりたいと企画・実行しました。早朝から出発して昼前にはキャンプ場に到着し、息つく暇もなく、いざ海へ！ コバルトブルーの透きとおった海と雲ひとつない空、見たことのない色鮮やかな魚。3日間の食事は全てバーベキュー。しばらく肉は食べなくていいです。写真はBBQ後に浜辺で涼んでいる場面です。左からPT藤本、PT香島、OT本田、PT畑田、PT小森、CW宮川 (※上のリレーエッセイもご参照ください)。



前号に続いての登場♥

看護部

キラリと光る看護 その32

羽ばたく生粋の急性期近森整形ナース

近森オルソリハビリテーション病院の立ち上げに近森病院3階西病棟から二人の整形外科ベテランナースが参画することになった。

一人は整形外科病棟16年、クリニカルパス委員会の静かな牽引役を務める近藤さちさんで、主任としての昇格人事。

もう一人は松岡看護師長、彼女は原田科長・枝重部長・衣笠部長と三代にわたり生粋の急性期の近森整形を歩んできた人である。なぜ生粋かという整形外科は通常の外来・救急・手術・入院・リハビリと一連の経過をたどるため、病床の確保と機能分化が重要で、かつては本館6階と分院（現メンタルリハ）、新館建築後は新館3階東・西・本館3階を使用、平成6年には6階東（混合）も使用。時には新3西を回復期リハ病棟に変え、また元に戻すなど変遷をとげてきたが、一貫してメイン急性期看護の質を保ってきたからである。

この急性期での「キラリと光る看護」は、やはり何といっても、
①みんなの力でできるだけ多くの患者さんを受け入れられるように、安全を保障する看護・合併症の予防・早期発見に努めてきたことで、平均在院日数は50日前後から14日に短縮された。手術件数は600台から1700件を超え、しかも病床稼働率は100%である。
②術後の患者さんを他院へ紹介する後方連携はほとんど病棟サイドで直接、他施設の師長やソーシャルワーカーと橋渡しができる基盤がつくれたこと。
④大学の医局派遣で医師の出入りが激しいため患者さんとの接点で気遣いの調整役を心がけてきたこと、
などがあげられる。

「スタッフには最初は厳しい人と恐がられていましたが、細かいことまできちんとその疾患や個人にあった観察のポイントなどを解かってもらうために、厳しさも必要だったのです。バタバタとやってきたのでスピード感の違う場所へ行くのは少し寂しい気もするけれど、コスト意識をもってがんばっていきたいと思っています！」という抱負が松岡看護師長から返ってきたの



はさすがと思った。(看護部長 梶原和歌)
(※梶原部長の顔写真がふだんの連載より若干大きめかも知れませんが、理由については、8面「編集室通信」をご参照ください)笑。

医療安全シリーズ⑩

医療安全担当看護師長 青木千利

前略ワッペン様

当欄の医療安全パトロール風景で、赤い手作り腕章をご紹介したが、このたび中央労働災害防止協会の販売している本物の腕章と安全管理者用のワッペンを病院で購入いただいた。

“災害ゼロ”のゼロの文字を、2人の人間が大きく上に持ち上げているお馴染みのマーク入りワッペンは、医療安全活動グループメンバーの左肩に安住の地を見つけた。そして、チョッと目立ちすぎの小豆色をした“安全管理者”ワッペンは、私の肩に留まった。



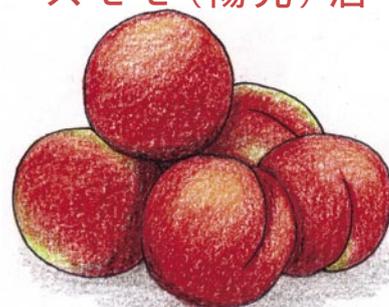
ワッペンを辞書で調べてみると、ドイツ語で紋章。「この紋所が目に入らぬか」ああ…恐ろしい……そんなこと…。

前略 ワッペン様

あなた様のお顔をお借りして、院内を潤歩してみます。お気に召さないことが多いと存じますが、暫くの間は大声を出さず、耳元でささやいてご指導くださいませ。

薬用酒アラカルト⑭

スモモ(陽光)酒



今回は太陽の光をたっぷり浴びた色鮮やかなスモモ(陽光)を使った、さわやかなお酒にチャレンジしました。材料はまたまた理事長より日曜市で見つけたものをいただきました。

<材料>(密閉容器1リットル分)

スモモ(陽光).....400g
ホワイトリカー.....約600ml

<作り方>

- ①スモモは水洗いし、水気をふき取る。
- ②つまようじで数箇所穴をあけ、容器に入れ、ホワイトリカーを注ぐ。
- ③6ヵ月目ぐらいで熟成したリキュールになる。

スモモ酒には、ブドウ糖、果糖、クエン酸、リンゴ酸などが含まれており、疲労回復、食欲増進などに効果があるといわれています。

漬け込んでから約2ヵ月半後、ひろっぱ編集委員による試飲会を行いました。「淡いピンク色がかわいい」、「梅酒よりも華やかな味」、「酸味があり、さっぱりしている」、「胃の調子が悪い時、食欲のないときに効きそう」などの感想をいただきました。甘さが少なかったため、氷砂糖を入れたほうがよかったかもしれないという意見もいただき、来年は氷砂糖を入れて、甘酸っぱいお酒にしてみようと思います。

氷を浮かべて食前酒として、また、サイダーなどの炭酸で割っても楽しめそうです。残暑に魅惑の陽光。トワイライトに、ほんのりピンク色、さわやかな口当たりのお酒をいかがですか。

(文と画 薬剤部 嶋崎 ユリカ)

※「陽光」について、県立農業技術センター果樹試験場の落葉担当・中平さんに教えてもらった。昭和25年12月25日に「陽光」と国(いわゆる農水省)に命名されたが、昭和27年3月22日に「大石早稲(わせ)」と名称変更され、4月21日付で農林種苗登録(いまの品種登録)された。

が、昭和26年12月から27年1月にかけて、つまりまだ「陽光」の名が残っている頃、当時の園芸組合長松村菊馬氏らが高知に苗木を仕入れ、組合員らに配ったために「陽光」の名が今に残っている…という興味深い話でした。(編集室)



第18回 クリニカルパス大会の報告

大腸切除術のパス

2007年9月8日にコンフォートホテルで

消化器外科部長 北川 尚史

新しい大腸切除術パスを作成

大腸癌には毎年約5万人が罹患し、男女とも大腸癌による死亡率は顕著に増加しつつあります。

現在の大腸切除術のパスができたのは2年前。今回のパス大会を契機に大腸パス使用症例をすべて再検討し、新しい大腸切除術パスを作成しました。術前腸管処置、術後予防的抗生剤、術後の食事、ドレーン抜去時期、術後のシャワー浴、術後不穩、退院日等について検討をしました。

新しくなったパスの変更点

主な変更点としては抗生剤投与期間を短く、術後の食事、術後のシャワー浴等を早期に開始し、全体の入院日数を短くしました。また抗生剤投与期間を短くすること、入院日数の短縮により、全体の医療費を抑制できることとなりました。

各職種から発表者

発表者は医師3名、看護師3名、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、医事課の皆さんで、それぞれに詳細に検討した内容の濃いものとなりました。

患者さんへ直接インタビュー

トピックスとしては“ストーマ（人工的につくられた新しい排泄口）について”との内容で、ストーマ管理について、またストーマをもつ患者さんに直接インタビューしその体験を語ってもらい、患者さん自身がストーマをどのように受け入れていったのかという経験を話してもらい、たいへん有益なものとなりました。

私個人の感想としては、外国（台湾、アメリカ、オーストラリア等）の術後食についての発表がとても興味深く感じました。今回作成したパスを用いて、効率性、安全性に基づいた医療を実践していきたいと思えます。

● 10月の歳時記 ●

金木犀（モクセイ科のモクセイ属）

文と画 医事課主任 市川 久江

10月ともなれば秋風と共にどこからともなくキンモクセイの香りが漂い、心が癒されます。主に庭木として観賞用に植えられています。我が家の玄関先のキンモクセイも毎年、秋には、小さなオレンジ色の花を咲かせ、良い匂いを放ってくれます。



後列左より／和田麗華（外科秘書）、布美奈子（主任看護師）、久保田聡美（総看護師長）、山下佐和（看護師長）、北村龍彦（副院長）、岡村美和（医事課）、坪井香保里（消化器外科医師）、中野克哉（薬剤師）、高井宏美（管理栄養士）、八木健（消化器外科科長）。
前列左より／田村一恵（主任看護師）、安田幸美（看護師長）、田中理子（看護師）、谷川睦（看護師）、北川尚史（筆者の消化器外科部長）、佐々木誓子（理学療法士）、小笠原真信（リハビリ科医師）、高橋潔（脳外科部長／パス委員長）。

多彩な万能選手の永井貫一さんに
心からの感謝の意を表したく……

永井さんは多彩な万能選手です。家の廻りのことなら何でもできます。修理や改造はもちろん本格的に家も建てることもでき、植木の世話など頼めば心安く動いてくれます。

そんな永井さんのご家族が当院で治療されたことがきっかけで、病院の周囲の植栽の手入れをしてくれるようになりました。長い間のボランティア、では「せめて実費だけでも」と、そんな関係で病院周りに心を砕いていただき、本当に有難い存在です。

高齢のため写真のような作業はもう止めて、川沿いの植木だけでもと、やっぱり動いてくださっています。

ちょうど秋は敬老の日もあり、このほど近森正幸理事長より感謝状と記念品を贈らせていただきました。

永井さん、これからもお身体を大切に近森のことをどうぞよろしくお願いします。（管理部長 川添 昇）

▼晴れやかに正装で！永井ご夫妻へ近森理事長から感謝状を謹呈



【7面】友利さん（右）から慶太元さんへ申し送り風景



(沖縄) 浦添総合病院と近森病院 看護師交換研修

6 西病棟 慶太元 亜香 (近森へ) ※写真6面

① 近森と沖縄を比べて: まずはスタッフの多さ。リハ病院と診療センターを併設しているのは良い。リハスタッフの多さにびっくり。→早期リハの充実につながっている。口腔ケア、ロリハが浸透していて、栄養面に対しても充実している。豊富な勉強会。他職種との関わり・連携・業務内容はいい面もあれば、もっと改善できそうな面もある。

② おいしいもの: カツオのタタキ (特に塩タタキ)、川えびの唐揚げ、ゆずジュース、新鮮な果物・野菜など

③ 珍しいこと: 生で生えているタケノコを見たのは初めて! 川遊び、地引き網、全てが新鮮です!

④ 嬉しかったこと: 高知の人の明るさと優しさに感動!! それと、お酒好きなこと。

⑤ これから… 温泉めぐり。秋は紅葉、冬は雪を楽しんで四季を体験していきたいです。

ICU 病棟 友利 由美 (近森へ) ※写真6面

① 高知へ来ての感想: 近森と比べて
・近森病院で何度か迷子になりました。新館・本館と入り組んでいてなかなか場所が覚えられない。

・スタッフ同士 (他職種間でも) の挨拶がよく交わされている。さらに笑顔で挨拶をされると、自分自身に張りが出て気持ちいいです。

・医師と看護師のコミュニケーションがよく取れていると思う。

・NST カンファレンスが開催されており、チーム内で活気がある。また、院長先生が中心となっており、具体的に指導、助言、解説をしてくださるので、とても有意義なものとなっている。

・口のリハビリが徹底されており、スタッフの意識の高さが伺える。

② こちらの生活アフター5、おいしい食べ物、珍しいこと、嬉しかったことなど

・まずはなんといってもカツオ! 沖縄でも食することはできますが、おいしさが違いました! 数種類の薬味と一緒に添えて食べるのは、美味。個人的には岩塩が一番です。

・これまで近距離でも車を使い、運動不足でもあったわたしですが、現在自転車通勤をしていることが信じられない…。体力に自信がないので、電動アシスト自転車にしました。1ヵ月たった今でも、時々筋肉痛がありますが…。

・沖縄には海がありますが、高知にはきれいな川があることが羨ましい。四万十川を下流から上流へと車を走らせたときに見る景色がよく、数カ所ある沈下橋へも寄ってみました。地元の子もたちが楽しそうに泳いでいる風景を見ると、なんだかホッと癒された。

・「夜の植物園 (牧野植物園) へ行き、初めて夜に咲く花を見て、なぜ夜に咲くのかという理由も知ることができた。

・また、JAZZ も聴けたし、ムーディーな雰囲気にも包まれ至福のひとときを過ごすことができた。

・高知は山と川に囲まれた自然の多いところだなあと思った。

▼自主財源のみで誕生させた日本初のU-PITS (ドクターヘリ) を背に近森会から視察のご一行



循環器内・心外・呼吸器外・内科病棟

平賀 弥江 (沖縄へ) ※写真上と右

今年から近森病院と浦添総合病院の看護師数名が交換で研修することになりました。去年の10月、近森病院の掲示板で「希望者募集」のお知らせを見つけ、私は沖縄に行ってみたいと、軽い気持ちで応募することにしました。

現在私は、循環器内科・心臓血管外科・呼吸器外科・内科の一般病棟で勤務しています。病棟の特徴は、レスパイトケアを取り入れていることです。レスパイトケアとは在宅で呼吸器を導入している患者のショートステイです。そのため一般病棟でも呼吸器が多いときは8台もあるときがあります。南4階病棟には20人近くのレスパイトケアの患者がいて、家族・本人の希望に応じて受け入れをしています。レスパイトケアの患者は調子が悪くなって病院に来るのではないので、主な看護は呼吸器管理と身体的ケア (シャワー・清拭等) です。あとは家族の精神的ケアを行なうことです。レスパイトケアの患者の家族と接しているうちに、在宅で呼吸器管理をするのは難しいのだと実感しました。定期的な吸引やアラームの音で夜も眠れないという家族もいました。そこで病棟では医師・かかりつけ医・看護師・SW・ケアマネジャー・酸素の業者と連携を密に、家族の精神的負担を少しでも軽減していくことが重要だと学びました。

また、浦添総合病院の特徴は、教育システムがしっかりとしているところです。循環器・呼吸器内科外科などの専任の看護師がいて、OP や検査等に立ち会い、病棟看護師に情報を提供したり、さまざまのことをアドバイスしてくれます。病棟勤務をしていないので密接に指導してくれます。病棟で疑問に思ったことも気軽に相談できる

心強い存在です。また、アドバンスナースや認定看護師もたくさんいて、病棟をラウンドし気付いたことをアドバイスしたり、勉強会を開催してくれるので大変勉強になります。

ところで、沖縄に研修に来ているので、休日はもちろん観光など楽しんでます。宮古島、首里城、美ら海水族館に行ってきました。どこも沖縄らしくてとても感動です! ただ眺めるだけでも心が癒されます。もちろん食事もおいしいです。おすすめは、沖縄そば、ソーメンチャンプルー、もずくです。こんな感じで、研修もはや5ヵ月を過ぎましたが楽しく過ごしています。



▶いかに沖縄! の青空を背景に左端が平賀さん、右端が竹内さん。中は視察に訪れた、左から和田・日浦・川村各看護師長

ICU 病棟 竹内 さと (沖縄へ) ※写真左と上

① 浦添総合病院での現在の所属病棟と、その病棟の特徴

私は、現在 ICU 病棟に勤務させていただいております。これまで救急救命病棟と ICU 病棟が一つのフロアだったのですが、今年の6月から ICU が造設され、救命病棟と分かれました。ICU は6床で、看護師は各勤 (三交代制) 3人~4人、主に心臓血管外科、脳外科、一般外科の術後、心配停止後救急で蘇生した患者さん等重症の患者さんが入室しています。

② 近森と異なっている看護・病院の特徴

・近森病院には、HCU、ICU、CCU、病棟がありますが、浦添総合病院には、HCU、究明病棟 (救命救急センター外科からの入院を主に受けます)、ICU があります。

・U-PITS (ドクターヘリ) があります。自主財源のみで誕生させたのは、浦添総合病院が日本初だそうです。

・共同診療制があり、近医のドクターと共に手術を行ったり、主に治療方針を検討したりしています。

③ こちらの生活アフター5

毎日はとても楽しくて充実しています。人は皆温かくて、親切で、誰でもすぐに受け入れてくれます。アフター5は、海に行つて夕陽を見たり、ジャズドライブ、買い物、岩盤浴など。あと、休日には、もちろんダイビングにも行っています。

④ おいしい食べ物・嬉しいこと

おいしい食べ物…もずく、そうきそば (スペアリブ入り)、沖縄そば (豚の角煮入り)、泡盛、てびち、海ぶどう、サーターアンダギーなど、他にもたくさんあります。

嬉しいこと…病棟のスタッフの方たちには迷惑をかけばなしなのですが、いつも丁寧にかつ親切に指導していただき、知識や技術はもちろん、人として看護師としてもたくさん学ばせていただいております。

第15回 秋の運動会

春野総合運動公園体育館で 2007年 9月 24日に

参加者数は約 350 名と昨年を大きく上回り、会場は熱気に包まれました。幼児の種目では親子の微笑ましい光景あり、商品が一瞬にしてなくなる大人のお菓子拾い(相変わらず圧巻でした!)あり、あの先生が!と思わせる借物競争(仮装です)などなど、参加者それぞれ楽しんでいただけたのではないのでしょうか? 運営にご協力いただいたスタッフの皆様、本当にありがとうございました。(健康管理センター 梶原麻世)



開会式ではリハ病院チーム恒例の応援風景

保育室企画の幼児の種目では、平均台もメダルも何もかも手作りで、ほのぼの盛り上げていただいた...



「お家へ帰ろう」では寿司折提げたフラフラのお父さん方熱演



大人ってどうしてこんなに綱引きに必死になってしまうんでしょう!? 張り切り過ぎて、負けてしまったあとはフニャ〜と照れ笑いの内科チームの皆さん



CPA 近森写真倶楽部

CHIKAMORI PHOTOGRAPH ASSOCIATION

近森写真倶楽部 CPA「瞬」は「仕事を離れて思う存分写真を楽しみましょう!」という集まりです。

シャッターの切れる、瞬きのような瞬間を倶楽部の名前にしました。出来たばかりのホヤホヤで、手作りの会ですが、参加をお待ちしています。仕事を離れて思いっきり癒され、また仕事に精出しましょう!

(隊長 山本彰)

なお、近森写真倶楽部「瞬」に入部を希望の方、また、写真教室第2クール【10月10日(水)18:00より】に参加希望の方は下記までご連絡ください。初心者も腕前に応じたカリキュラムが用意されています。※1クール12回で24,000円。(6回で12,000円、または12回で24,000円)。光明院美和 822-5231 内線6614 mail:mi_komyoin@chikamorikai.or.jp

古茂田不二写真教室 作品展



写真の好きな人たちが集まって写真家古茂田不二(愛媛写真家協会会長)先生と共に、写真の勉強と撮影会を続けてきました。今年4月から始めた第1クール(12回)がこの9月23日に終了しました。その勉強の成果を皆さんにぜひ観ていただきたいと、**作品展を企画**しました。

受講生各人の個性が出て面白い作品が並んでいますので、**近森病院新館2階ロビー**でぜひご覧ください。なお、**展示期間は9月25日~10月9日**です。

おめでとう

●お誕生

- ◆ 8月6日 安光晃利さん(人工透析室看護師)と恵美さん(一般外来看護師)に、長男・優貴(ゆうき)ちゃん。
- ◆ 8月27日 濱田かおりさん(CCU看護師)に、長女・茉佑(まゆ)ちゃん。

図書室便り (管理棟図書室 8月受入分)

- ・ Surgery on the Foot and Ankle Eighth Edition Volume.1, 2 / Michael J.Coughlin(他著)
- ・ AO Principles of Fracture Management Second Expanded Edition Volume.1, 2 / Thomas P.Ruedi(他著)
- ・ Atlas of Microvascular Surgery: Anatomy of Operative Approaches Second Edition / Berish Strauch(他著)
- ・ 最新整形外科学大系 11 頸椎・腰椎 / 戸山芳昭(専門編集)
- ・ 最新整形外科学大系 18 下腿・足関節・足部 / 越智光夫(他専門編集)
- ・ 改訂 精神保健福祉法の最新知識 歴史と臨床実務 / 高柳 功(他編著) 《寄贈本》
- ・ MRSA-基礎・臨床・対策-/河野茂(編集) 《別冊・増刊号》
- ・ 別冊 NHK きょうの健康 ひざの痛み あなたに合った治療がわかる / 守屋秀繁(総監修)

8月の診療数	近森会 外来患者数	18,040 人	企画情報室より
	近森会 新入院患者数	756 人	
	近森会 退院患者数	766 人	
	地域医療支援病院紹介率	84.88 %	
	近森病院平均在院日数	14.83 日	
	近森会 平均在院日数	24.12 日	
	近森病院救急車搬入件数	451 件	
	うち入院件数	218 件	
	手術件数	405 件	
	うち手術室実施	261 件	
全身麻酔件数	159 件		

編集室通信

▼今年の夏は格別の暑さでした。気温だけでなく看護管理学会(※前号の1面トップ記事をご参照ください)成功のために力を発揮してくださった方はそれぞれ燃えていました。学会がおわって大会長(の私)は「写真」(※5面「キラリと光る看護」をご参照ください)が実物よりよく撮れていたのが大満足でしたが、事務局を担った秘書のWさんは、酸欠になったマラソン選手のように直後はフラフラでした。心配しましたが最近再びダイビングに毎週行けるようになってピチピチです。よかった!(歌)